

LS460(USF40 系)

ブレーキフルード交換要領

- 適応車種:LS(USF40 系)
- 適応年式:平成 18 年 9 月～

G-scan を使用して行なう LS(USF40 系)のブレーキフルード交換要領を記載しますので、参考にしてください。



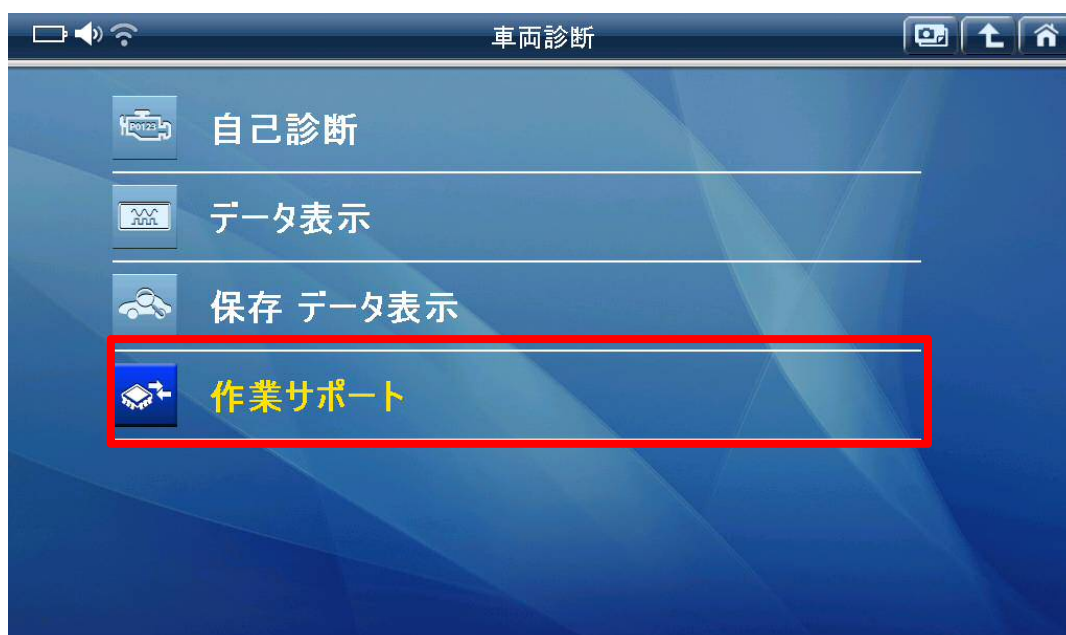
※注意※

- ・ブレーキフルードの交換は車両停止状態、車両が正常な状態(ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時)で実行してください。
- ・エア抜きを行う際はシフトレバーPレンジでパーキングブレーキを効かせた状態で作業を行なってください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで行なってください。エアが完全に抜けていないと車両に悪影響を及ぼすだけでなく、ブレーキ回路に支障をきたし、正常なブレーキ操作ができなくなり、交通事故を引き起こす原因となります。
- ・交換中はリザーバタンク内のブレーキフルードが常にリザーバタンクを満たしている状態にしてください。

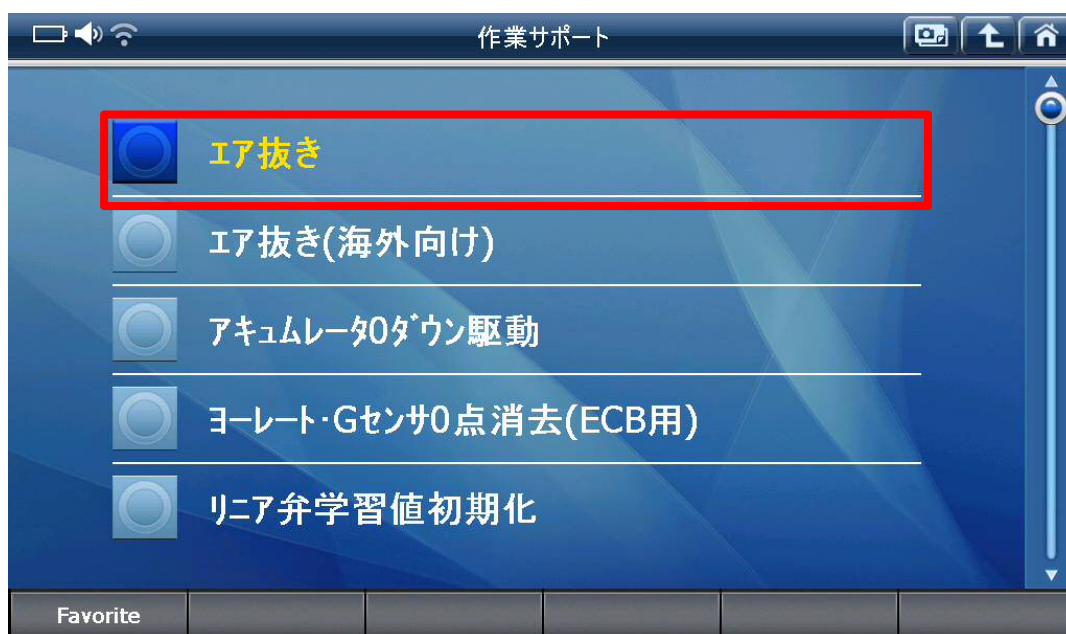
ブレーキフルードの交換要領

1. IG OFF の状態で、G-scan を DLC3 コネクタ(OBD16 ピン)に接続してください。
2. IG SW ON の状態で、G-scan の電源を ON にして車種、システムを選択してください。選択するシステムに関しては『ABS/VSC』又は『ABS/VSC/ARS』を選択してください。

3. 診断メニューにおいて、『作業サポート』→『エア抜き』の順番で項目を選択してください。エア抜き項目が表示されます。

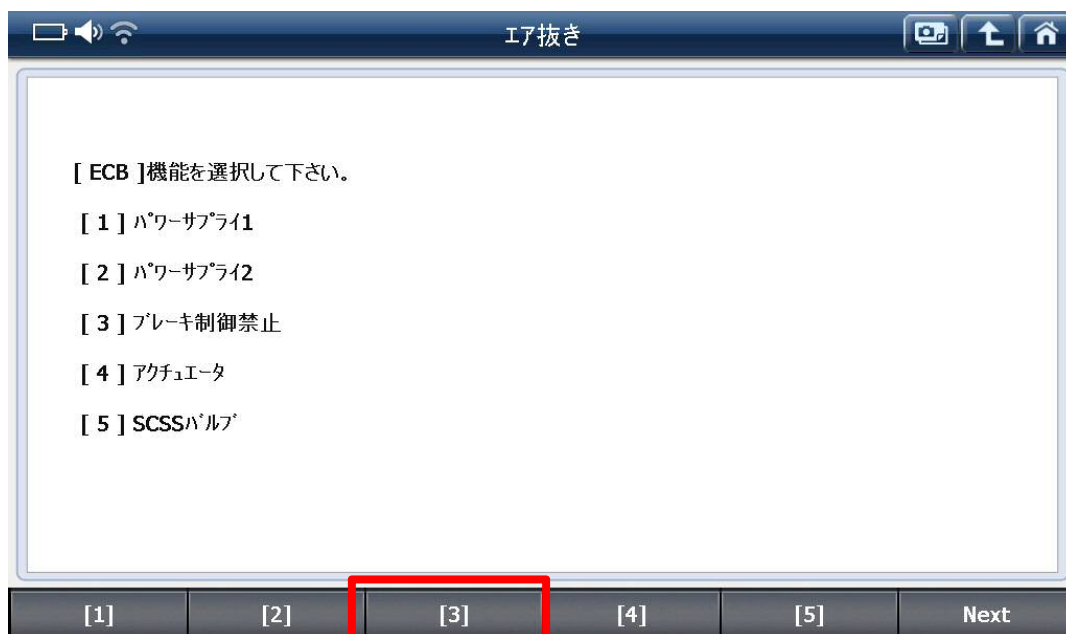


〈図: 作業サポートを選択〉



〈図: エア抜きを選択〉

4. 『ブレーキ制御禁止』を選択して、実行してください。



〈図:ブレーキ制御禁止を選択〉



〈図:ブレーキ制御禁止を実行〉

5. ブレーキペダルをペダリングし、フロント右、左のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。

※注意※

- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・エア抜きは右、左の順に行なってください。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク： 11N・m {110kgf・cm}

6. ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、ポンプモータおよびソレノイド駆動中にリヤ左のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。エア抜きはブレーキペダルをペダリングせず、踏み込んで保持した状態で行なってください。

※注意※

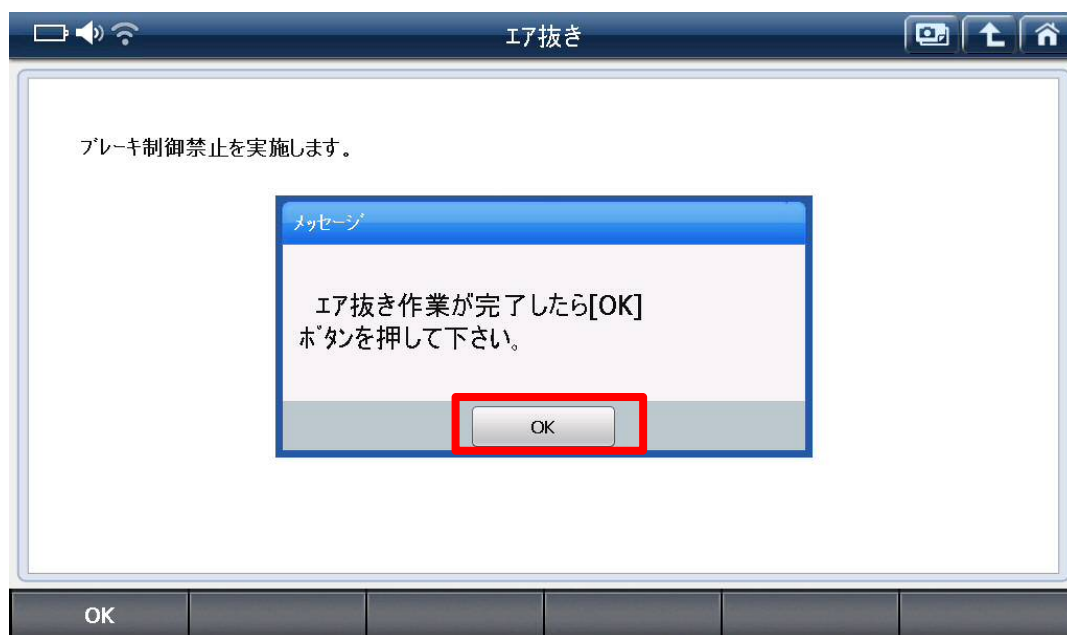
- ・ソレノイドの駆動は約 30 秒を目安にして、ペダルを離して停止してください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・エア抜き中に ECB ウォーニングランプ点灯、ブザーが鳴りますが異常ではありません。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク： 11N・m {110kgf・cm}
- ・リザーバのフルード液面が MAX レベルより 5 mmほど下にある状態でエア抜きを終了すると、フルード量調整が容易に行なえます。

7. ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、ポンプモータおよびソレノイド駆動中にリヤ右のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。エア抜きはブレーキペダルをペダリングせず、踏み込んで保持した状態で行なってください。

※注意※

- ・ソレノイドの駆動は約 30 秒を目安にして、ペダルを離して停止してください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・エア抜き中に ECB ウォーニングランプ点灯、ブザーが鳴りますが異常ではありません。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク： 11N・m {110kgf・cm}
- ・リザーバのフルード液面が MAX レベルより 5 mmほど下にある状態でエア抜きを終了すると、フルード量調整が容易に行なえます。

8. G-scan で実行した『ブレーキ制御禁止』を解除します。



〈図:ブレーキ制御禁止の解除〉

9. IG ON の状態でフルード液面を MAX レベルに調整してください。

10. G-scan の診断メニューにおいて『自己診断』を選択して記憶された故障コードを消去してください。